



柴燈大護摩火入れ作法

観音

平成17年3月
第39号

発行

広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-4
真言宗 正観寺
小出真行

自分のものでありながら、
その実体を知りたいのは、
我が心である。

十住心論より

「安心」 あんじん

人間の命などというものは、まさに無常であり、いつでも不安にさらされているのです。それでは、どうしたら心安らかに人生を送ることができるのでしょうか。それは仏教の教える「安心」です。

宗派によって「安心」のあり方も違ってきますが、浄土教であれば、必ず極楽往生できると信じて疑わないう心をもつことを「安心決定」といいますし、禅宗であれば、「災難に遭うときは遭えばよい、死ぬときは死ねばよい」と言っているように、すべてあるがままに受け入れる「無心」の心が「安心」ということになるのでしょね。

「即身成仏」を目指す眞言行者に おける「三密行」の重要性

小出英夫

現代社会が科学の時代、合理主義の時代である中、密教ブームが浸透してきている。密教とは秘密仏教の略称であり、実践哲学である。インド、ヨーロッパ、アメリカ等の学者はそれを秘教的な仏教とか仏教の中の秘教と呼んでいる。しかし最近ではそれを金剛乗とかタントラ仏教と称す様になつている。金剛乗とは金剛の様に不壊の教えであるという事であり、タントラ仏教とは、後期の密教聖典が従来の經典に変わつてタントラと云われる様になつた事を起因としている。

それでは密教が我国に伝えられたのはいつ頃かと云うと奈良時代には既に断片的な形で伝えられていたが、日本的に組織化したのは空海の眞言密教であり、最澄の天台密教である。そもそも密教は、大日如来に始まり、金剛薩埵、龍猛、龍智、金剛智、不空、惠果、空海の順序に付法されている。これを図示すると、「大日如来→金剛薩埵→龍猛→龍智→金剛智→不空→惠果→空海」の順である。しかしこの第一祖の大日如来と第二祖の金剛薩埵は教義上の人物で、実在の人物ではない。では実在の人物ではない金剛薩埵から、どの様にして密教が現実の人間の間に流伝したのかと云うと、南天の鉄塔と云う現実の塔とも、空想の塔と

も、いずれにも理解されぬ様な中間的な媒介があつたのである。この密教の特質は、インド及シナで展開した大乘仏教の一環としての密教を我国古代の民族宗教を包摂しつつ、独自の思想体系に組織化し、大乘仏教の究極的な形態を位置づけた点と、即身成仏の思想を形成した点である。ちなみに最初に「即身成仏」という言葉は、天台宗六祖の妙楽湛然(711—782)が「法華経」の注釈書、「法華文句記」を著作し、その中の巻第十二「提婆達多品」[大正34・314b]に「龍女昨仏と云うは、問う、分段を捨てずして、即成仏すとすや。若し即身成仏せざれば、この龍女成仏と胎経の偈とは云何んが通ずるや」とあり、田村博士によれば、これが「即身成仏」の語の初出である、とある。この論文に於いて、私は密教の特徴である即身成仏の問題を取り上げる。私は「即身」と「成仏」という言葉に興味を湧き、即身成仏とは一体何なのかを追求してみたくなったのである。即身成仏の問題を取り上げるといふ事は、必然的に空海の「即身成仏義」を理解する必要がある。空海の教えを一言で述べれば即身成仏といふ事になり、更にそれをわかりやすく言えば、この現実の身体そのままで仏と成るといふ事であるのが一般的な解釈である。それを更に言い換えると、現実に存在するものを悉く生かしきる事、持てる力を十分に發揮させる事、自然と人間とが持つ最大限能力の開発、これが空海の説く即身成仏の現代的

な表現方法だろう。しかし、空海の即身成仏思想は必ずしも「即身成仏義」を通してのみ考えられるのではなく、空海の生涯における多くの著作の中に随処に見られるのであり、それらの著作を通してみる時、空海の即身成仏思想には中国における学修の他に、自らの思索による思想の組織化があり、発展があつたと考えられる、という事も念頭に置いておく。

そこで私はこの論文を書くにあたって、素朴な疑問が発生した。

どうすれば人間は即身成仏をするのだろうか。

どうやれば人間は即身成仏できるのだろうか。

即身成仏するためには何が必要なのだろう。

この疑問を率直にこの論文の問題提起とする事にした。

○即身成仏思想と即身成仏思想の証拠づけ

即身成仏思想と三劫成仏思想

仏教の永遠目的は仏に成る。つまり成仏する事であり、それは自己の宗教的な人格の完成である。即身成仏思想とは、現世に於いて宗教的な最高の自覚が得られたならば、直ちにこの肉体をもって自己の全存在をあげ、そのまま宗教的理想の境地に到達する。つまり凡夫のこの身が直ちに仏陀乃至覚者になる事である。「密教の宗教思想で、現在生きてる間に、生きてるこの身に即して成仏の境地に到達しようとする事、或いはそれが可

能である事」とある。

密教に於ける即身成仏思想と対立するのが三劫成仏思想である。(隔生成仏、遠劫成仏とも云う。)三劫成仏思想とは、三大無数劫、つまり教え尽くす事の出来ない長い間修行に修行を積み、生まれ変わりに死に変わりして成仏するのであって、生きている間に成仏するとは限らないのである。故に、即身成仏思想と三劫成仏思想との大きな違いはここに成仏の遅速であるといえる。(次号に続く)



「他力本願」

「他力本願」といえば、自分ではちっとも努力をせずに、もっぱら他人の援助に頼って事を成就せんとする、いささか虫のいい態度をいつた言葉であり、一般にもその様な意味と思われています。でも、本当はそうではありません。

仏教には、大きくわけますと、自力の教えと他力の教えがあります。

自力の教えといえますのは、例えば禅宗での坐禅もそうでしょう。自分の力で修行をし、そして悟りを開こうとするのが自力の方法であり、仏教は、基本的にやはり自力の教えのように思えます。

けれども、自力で修行をするといっても能力に恵まれない人や、自分がおかれた環境のせいでも能力があっても、その能力を十分に発揮できない人もいるでしょう。そのような人は、仏(絶対者)の力に頼るほかはありません。仏の力に頼って救われようとする教えは法然の浄土宗や親鸞の浄土真宗がその他力の教えなのです。

他力の教えの根底にあるのは、阿弥陀仏の信仰です。ですからその他力の信仰は、阿弥陀仏の本願にもとづいていますので「他力本願」というのであり、「他力本願」の教えは戒律を守ったり、坐禅をしたりする難しい修行はいらないとされ、ひたすら「南無阿弥陀仏」と念仏を称え、阿弥陀仏の救いを信ずることで「信心の仏教」といえるのです。

烏枢沙摩 (うすさま) 明王

「ウスサマ」は「烏枢沙摩」「烏芻沙摩」「烏枢瑟摩」と原語の発音は「ウツチュシユマ」です。したがって一般的には「ウスサマ」ですが「ウスシマ」「ウズサマ」などともいった発音も使われているようです。

訳語には「除穢」「不浄」「火頭」「錯雑」等たくさんありますが、中でも「除穢梵焼」とか「梵焼穢悪」といったのが適切な訳語のように思われます。

密号(密教名)では「穢迹金剛」とか「火頭金剛」もしくは「不壊金剛」等と呼ばれたりもしています。一説によりますと五大明王の中の「金剛夜叉明王」と同体だといいますが、この説は認められていません。なぜかと申しますと「ウスサマ明王」は、ものの不浄を食す明王さまであるのに対し「金剛夜叉明王」は、心の不浄を食す明王さまであるからです。

お姿は一定していませんが、いずれも大炎に包まれ忿怒形をしています。これは大智の火炎でもって淫欲や不浄を焼き尽くして清浄にするとの意味を現しているわけで、真言は

「オン、クロダナウ、ウンジャヤク」

の小呪と呼ばれているものが一般化されています。「三界殺害熱惱尊よ、浄めたまえ、空じたまえ」と訳し、その功德は、不浄を清浄にしたり、淫欲を消したりする外、枯木の精、毒蛇の苦、その他諸悪鬼のたたりなどを防いだり除いたりする力があるとされています。

こうしたことから、密教寺院や、禪家などではこの明王さまを隠所(便所)の守護神としてお祀りしているわけです。そのお姿真言を印刷・開眼したお札が在家にも授与されています。

四国八十八か所霊場「お砂踏み」

「霊場」とは、「宗教的な霊験がある土地」という意味で、この霊場を参拝してまわることを「霊場めぐり」あるいは「巡礼」「遍路」といいます。

心が洗われる「四国八十八か所霊場」は、真言宗の祖・弘法大師（空海）が四国の修行地を回ったときに定め、四国四県にわたる全行程一二〇〇キロの壮大な道のりで、徒歩だと四十日以上、交通機関を利用して最低十日はかかるとされていますのでなかなかご縁がありません。

なお四県の霊場は、それぞれ意義づけられ。阿波の国（徳島）を発心の道場、土佐の国（高知）修業の道場、伊予の国（愛媛）を菩提の道場、讃

岐の国（香川）を涅槃の道場と呼んでいます。

この度、参道整備（階段部分）と併せて、皆様のご要望に応え、正観寺墓苑参道の階段を八十八段に工夫、四国霊場のお砂を集め遍路したと同じような功德・心の安心が得られます「お砂踏み」道場を発願し、階段を登りきりますと同行二人の修行大師がお迎えするよう計画致しました。

各階段には本四国霊場のお砂を敷きその上に石を配置し、札所番号・寺院名・奉納者名を刻み、後世に伝えたいと存じます。趣旨にご賛同の方は三月末日までにお申込み下さい。尚、お申込み順に札番が選べますが「重なった場合は、話し合いにて決定」八十八名限定と致します。

申込金 一段 一〇〇、〇〇〇円

大小便時 当願衆生
御真言
おんくろだなう、うんじやくそわか



四国八十八か所霊場
第三十二番
正観寺
箱島山



平成十七年度 年間行事予定

- 一月一〜三日 修正会
- 一月二十一日 初大師
- 二月 三日 星祭
- 三月 十三日 観音大祭
- 四月十日〜十一日 小豆島巡拝
- 七月三日〜四日 石鎚山参拝
- 八月二十一日 地藏祭
- 十二月三十一日 年越し祭

参加者募集

- 一、平成十七年四月二日（日）
〜十二日（火）二泊三日
『小豆島巡拝』
費用 三六、〇〇〇円
- 二、平成十六年七月三日（日）
〜四日（月）一泊二日
『石鎚山参拝』
費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ

〇八二―二八二―五六六二迄

